

徳島大学大学院 ○学生員 二神 彩
徳島大学工学部 正会員 山口行一

徳島大学工学部

正会員 山中英生

(株)エコー建設コンサルタント 正会員 小川哲也

1.はじめに

地方都市では、中心市街地の活性化が社会的に注目されているが、商店街の魅力向上やアクセス性の向上に加えて、歩行者・自転車環境の向上は重要な要素と言える。本研究では、徳島市の中心市街地での回遊行動特性を分析して市街地整備の課題を考察した。

2.調査地区の概要

図1に対象とした新町商店街を示す。この地区は徳島市の中心市街地活性化基本計画の中で中核的地区となっているが、ほとんど全ての道路に歩道がなく、路上駐車に加えて狭い道路に歩行者・自転車に混じって自動車が流れ、歩行者・自転車の安全性や快適性が失われているという問題を抱えている。

3.アンケート調査

新町商店街における人々の買い物行動の実態を把握するため回遊行動に関するアンケート調査を実施した。アンケートは来街者の属性、来街したときの商店街内の回遊行動として訪れた場所、それぞれの滞在時間、経路を尋ねるもので、調査日は平成11年7月10日(土)、9月18日(土)である。新町商店街を通行している人々に対し現地で調査票を直接手渡しし、後日郵送で回収する方法をとった。1000部配布し回収率は16%である。

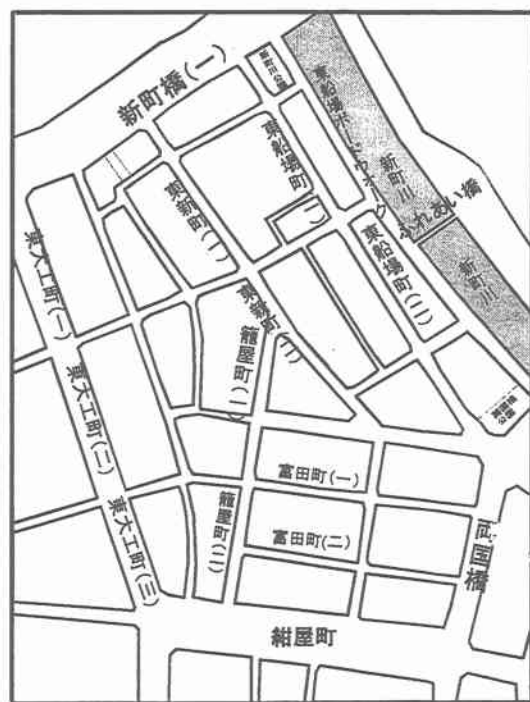


図1 新町商店街周辺地図

4.追跡調査

歩行者・自転車のトリップ追跡調査では地区内の出入り口及び商店からのトリップの発着点、経路を追跡により調査した。対象地域を15の入口と10のゾーンに分け、それぞれに人を配置し、各ゾーンで店から出てきた人、地区に入ってきた人を追跡するものである。調査日は、平成11年5月29日(土)であり、最終的に342人のトリップを追跡した。

5.自転車・歩行者の回遊行動分析

中心市街地での回遊行動の基本的な特性を捉えるために、総回遊歩行距離、1トリップ回遊歩行距離、滞在時間、回遊トリップ数に着目した。図2は年齢階層別の総回遊歩行距離の累加分布を示している。老人に注目すると300m以下の人が4割に達しているのに対し、青年では2割に満たない結果となっている。このことから高年層ほど総距離は短くなっていることが分かる。図3のトリップ数においても高年層ほど回遊トリップ数が少なくなっていることが分かる。図4の来客手段別に見た滞在時間の比較では、公共交通により来客した人は滞在時間が長いのに対し、二輪では逆に滞在時間は短い傾向にあることが分かる。図5の手段別の総回遊歩行距離で見ると公共交通利用者では600m以下の人が9割に達しているのに対して、二輪では75%、自動車では65%となっている。自動車・二輪利用者の総距離が比較的長いのは、駐輪・駐車施設が中心市街地に少ないことが原因と考えられる。

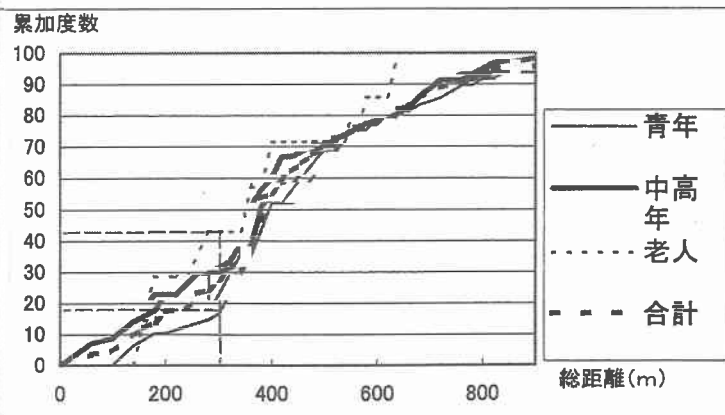


図 2. 年齢階層別・総回遊距離

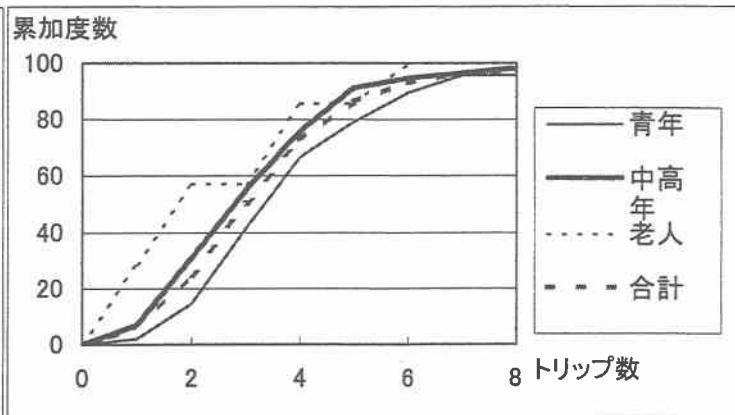


図 3. 年齢階層別・トリップ数

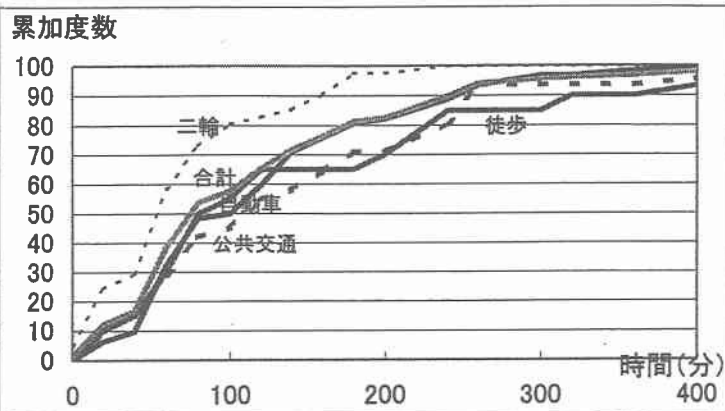


図 4. 来客手段別・滞在時間

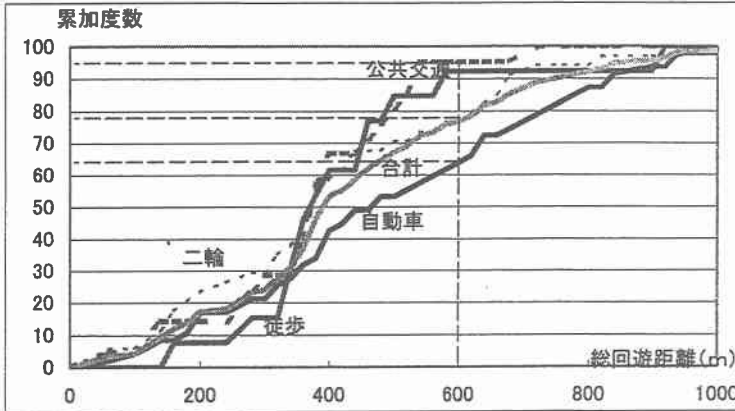


図 5. 来客手段別・総回遊距離

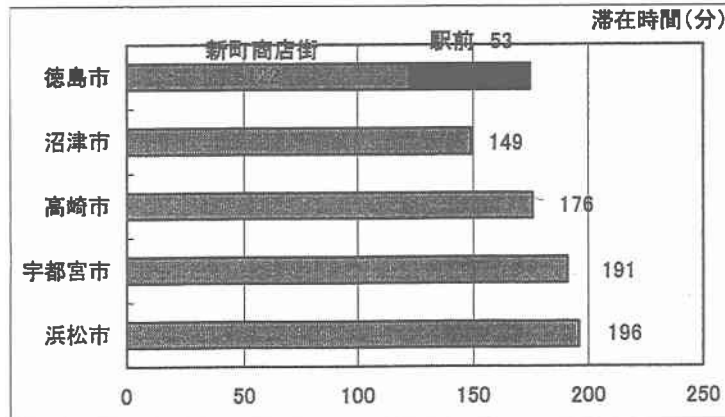


図 6. 都市別滞在時間

図 6 は既存調査¹⁾を用いて各都市の中心市街地での滞在時間を示している。浜松市で 196 分、徳島市では滞在時間が 122 分となっている。これは各々の都市における中心市街地の規模が異なることが原因と考えられる。ただし徳島は新町商店街のみの滞在時間である。アンケート調査により得られた駅前地区での滞在時間を含めると 175 分となり、他都市に比べても十分な長さとなる。なお平均立ち寄り店舗数を比較した所どの都市も、約 3 店舗・施設を訪れており、これは都市の大きさは関係ないと考えられた。

6. 結論・今後の課題

回遊行動は年齢階層により違いが見られ、老人は総歩行距離、トリップ数が少ない一方、滞在時間には違いは見られなかった。来訪時の交通手段による比較では自転車利用者の滞在時間が短く、公共交通での来客者は他の年齢層と滞在時間が長いことが分かった。自動車・徒歩はその中間となっている。これらの結果を考察すると、老人の回遊歩行環境の改善、公共輸送機関の改善、駐輪場の整備また公共アクセスの改善などの施策を進めることで中心市街地での滞在時間の増加の可能性を示唆できる。今後は回遊行動の経路選択の分析を進めると共に、歩行環境整備に対する意向についても分析を進める必要がある。

【参考文献】

- 1) 木下端夫, 田雑隆昌, 村牧和彦, 浅野光行: 都心地区における歩行者回遊行動調査とその有用性に関する研究, 土木学会論文集 No.625 p161~p170, 1999
- 2) 山中英生: 中心市街地活性化とグリーン・モード空間の整備に関する研究, 交通工学 Vol.33, No.1, p3~8, 1998